

令和2年度授業改善推進プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。
 - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
 - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
 - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名(数学②) 教科担任名 田後 要輔

★教科・観点について
 期末テスト及び学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。<○成果 ▲課題>

観点	1学期			2学期			3学期
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
数学への関心 ・意欲・態度	1年	○意欲的に発言し、課題への取り組みも良い。 ○宿題を計画的にやろうとする生徒が多い。 ▲個々の支援が必要である生徒が多い。	・生徒が積極的に授業に参加できるように、グループ学習を取り入れ、発言・質問しやすい雰囲気を作る。 ・生徒が自信を持って答えられるような発問の工夫を行う。 ・各生徒の理解状況を常に把握し、遅れがみられる生徒への支援を適時行う。 ・本時のねらいや既習事項の確認をその都度行い、各授業の理解を深めさせる。 ・生徒の理解状況に応じた教材づくりを行う。(ウイークエンドシート)	1年	○少人数を生かして、個に合わせた授業をすることができた。 ▲個々の支援が必要である生徒が多い。	・生徒が積極的に授業に参加できるように、グループ学習を取り入れ、発言・質問しやすい雰囲気を作る。 ・生徒が自信を持って答えられるような発問の工夫を行う。 ・各生徒の理解状況を常に把握し、遅れがみられる生徒への支援を適時行う。 ・本時のねらいや既習事項の確認をその都度行い、各授業の理解を深めさせる。 ・生徒の理解状況に応じた教材づくりを行う。	
	2年	○意欲的に発言し、課題への取り組みも良い。 ▲個々の支援が必要である生徒が多い。		2年	○グループ学習を通して、発言が少ない生徒も意欲的に意見を出すなど、積極的に課題に取り組めた。		
	3年	▲個々の支援が必要である生徒が多い。 ○提出物をほぼ確実に行うことができる。 ▲主体的に考え、授業に取り組むものの、自信のなさから発言に消極的である。		3年	○発展的な問題に意欲的取り組み生徒が多い。		
数学的な見方や 考え方	1年	○既習事項を利用し、様々な考え方のもと、問題解決に取り組もうとする生徒が多い。 ▲文章から数量を読み取り、式で表すことができない生徒が多い。	・課題解決型学習を積極的に取り入れ、グループ学習や教えあい学習の中から、表現力・思考力を高めさせる。 ・思考力が足りない生徒には、言葉の式や視覚的にとらえさせる教材を利用し、数量関係を理解させていく。	1年	○既習事項を利用し、様々な考え方のもと、問題解決に取り組もうとする生徒が多い。	・課題解決型学習を積極的に取り入れ、グループ学習や教えあい学習の中から、表現力・思考力を高めさせる。 ・思考力が足りない生徒には、言葉の式や視覚的にとらえさせる教材を利用し、数量関係を理解させていく。	
	2年	○既習事項を利用し、様々な考え方のもと、問題解決に取り組もうとする生徒が多い。		2年	○発展的な学習に時間をかけて取り組み考える生徒が多い。		
	3年	▲個人で取り組むことができる生徒が少ない。		3年	▲文章から数量を読み取り、式で表すことができない生徒が多い。		
数学的な表現・処理	1年	○毎時の小テストを通して計算力の向上が見られた。 ▲分数や小数の計算になると、同様の計算でもミスが多く見られる。	・小学校の単元のつまずきの多さを適時行うで計算の向上を図る。 ・なぜ間違えたか一つ一つ直しをさせ、同様の問題の反復練習から計算の向上を図る。 ・既習事項の確認から、本時とのつながりを意識させ、各単元どうしの計算のつながりをより明確にする。	1年	○毎時の小テストを通して計算力の向上が見られた。	・なぜ間違えたか一つ一つ直しをさせ、同様の問題の反復練習から計算の向上を図る。 ・既習事項の確認から、本時とのつながりを意識させ、各単元どうしの計算のつながりをより明確にする。	
	2年	○既習事項を利用し、様々な考え方のもと、問題解決に取り組もうとする生徒が多い。		2年	○計算能力の向上が見られる。 ▲1, 2年の計算の復習が必要な生徒が多い。		
	3年	○既習事項を利用し、様々な考え方のもと、問題解決に取り組もうとする生徒が多い。		3年	○毎時の小テストを通して計算力の向上が見られた。 ▲次の授業で学んだ内容を忘れてしまうなど基礎・基本の定着が図れない生徒がいる。		
数量、図形などについての知識・理解	1年	○文字式や方程式の計算方法を理解している。	・図や表などを用いて、式の表し方を視覚的にわかりやすくするなど教材の工夫を行う。 ・定理や条件など暗記が必要な単元などは必要に応じて小テストなどを行うなどして、必ず覚えさせていく。	1年	○文字式や方程式の計算方法を理解している。 ▲数量と文字式での表し方を関連して考えることができない生徒が多い。	・図や表などを用いて、式の表し方を視覚的にわかりやすくするなど教材の工夫を行う。 ・定理や条件など暗記が必要な単元などは必要に応じて小テストなどを行うなどして、必ず覚えさせていく。	
	2年	○単項式、多項式の計算や連立方程式など計算方法を理解している。		2年	○単項式、多項式の計算や連立方程式など計算方法を理解している。 ▲数量や数量関係を読み取る、説明することが苦手とする生徒が多い。		
	3年	○乗法公式や平方根など、計算方法を理解し、様々な2次方程式の計算に利用することができる。		3年	○乗法公式や平方根など、計算方法を理解し、様々な2次方程式の計算に利用することができる。		
授業改善の検証方法	定期テスト、計算テスト、ワーク、授業内プリント、発表、授業態度、課題状況、発言、授業評価など						
研修課題(キャリア教育に関連した教科としての取組)	研修課題に対する教科としての具体的な実践方法	1学期の成果と課題	1学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容	2学期までの成果と課題	1年間の成果と今後の課題		
・人間関係形成能力 ・社会形成能力	・各単元の導入やまとめにおいて、課題解決型学習や教えあい学習などを通して、自分の考えを、相手にわかりやすく説明できるようにさせる。	○課題解決型学習や教えあい学習などを通して、意欲的に話し合いができていく。 ▲考え始めるきっかけが作れない生徒への発問の工夫が必要である。提出物が出せない生徒へのフォローが必要である。	○黒板に生徒が考えた式を書きそれを発表したり、グループ学習を実施することにより、自分の考えや思いを相手に伝えるよい機会になった。 ▲発表者がいつも同じ生徒になる傾向がある。全体の前ではまだ自分の意見を言えない生徒がいる。	○生徒の自主性を大切にした指導を行っている。			